シルバーラビット
銀兎神装アイリス
VSクソガキ怪人
NTR洗脳編
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

PRESENTED BY
トランジスタベイビィ

時は近未来ッ!!
仮初の平和の影で凌ぎを削り合う2つの勢力があったッ!!
世界を牛耳るべく暗躍する悪逆非道なる怪人勢力『ヴィースト軍』ッ!!
それを向かい撃つべく集結した正義のヒーロー達が組織した『対異能防衛隊』ッ!!
そしてヒーロー・ヒロインの中でもひときわ輝く綺羅星のごとき存在があった!!その名も『シルバーラビッツ隊』ッ!!
日夜増強される『ヴィースト軍』の脅威に対抗すべく集められたスーパーヒロイン達によって構成されたエリート特殊部隊であるッ!!
白銀の強化スーツに身を包んだ気高き彼女たちをあらゆる悪が恐れたッ!!
シルバーラビッツ隊 隊員：Sラビットデイジー
シルバーラビッツ隊 隊長：Sラビットアイリス
シルバーラビッツ隊 隊員：Sラビットダリア
だがしかし…ッ!!

銀兎神装アイリス・VSクソガキ怪人NTR洗脳編

「ラビットレイピア・ハリケェーーーーーーンッ！」

「グァアアアアアアアッ！」

夜の自然公園。都会の中で一部すっぽりと暗い、僅かな街灯しか明かりのない、普段であれば静かな場所にて。無数に舞う銀閃の嵐に切り刻まれ、俺達の標的であった『怪人』は、シルバーラビッツ隊隊長のSラビットアイリスの前に敗れ去った。

「ダリア、魔神片の確保を！」

「ハッ！　反応が高いのは……ここッ！」

「グハァッ！」

膝を着いた怪人に対し、副隊長のSラビットダリアが専用キャプチャーアームで怪人の肩部を打ち抜く。そして怪人を吹っ飛ばしたそのサイバネチックなアームには、赤紫に輝く禍々しい小さな結晶片が掴まれていた。

「魔神片、確保完了しました、アイリス隊長！」

「ご苦労様、ダリア。しかし、魔神片を取り除いても怪人化が解けないという事は、コイツは元々からヴィースト軍の怪人だったという事か」

「下っ端の怪人が魔神片を手にして暴走、ってところですかね。一般人が怪人化被害にあわなくて良かったですが……その分手ごわかったですね」

「全くだ。あの四天王怪人も厄介な事をしてくれたものね。あぁ、キミ。周囲のヴィーストエナジー反応はどうなっているかしら？」

「はっ、隊長！　えぇとですね……」

不意にアイリス隊長に呼ばれて、俺は慌てて説明に入る。正直、カッコ良くて美しすぎる隊長の姿に見惚れてしまっていた。

俺はシルバーラビッツ隊のサポート隊員だ。出来れば隊長と肩を並べる戦闘隊員になりたかったが、専用スーツ適性や根本的な魔力量から男である俺では厳しかった。

悔しいが……と、今はそれどころじゃないな。ちゃんと役目を果たさないと。

「戦闘の直後ですし、暴走でエナジー振りまいていたみたいですからね。あちこちに反応があるので、まだ他に怪人が居たり、魔神片があっても判別は出来ないかと」

「ふむ……やはりそうか。ならひとまずダリアは魔神片の封印措置と警護を。私と他の隊員は、デイジーに任せていた周囲警戒探索に合流するぞ」

「はっ！　了解です隊長！」

隊長の命令が示す通り、俺達の今の任務は『魔神結晶片』……通称『魔神片』の探索、回収だ。

十日前にあった我らラビッツ隊含め中央から派遣のエリート部隊合同による四天王怪人討伐作戦にて、無事標的の怪人をうち果たしたモノの……

その四天王怪人は自身を四天王足らしめている高濃度ヴィーストエナジー結晶『魔神結晶』を封印されるのを拒み、確保寸前に結晶を自らの手で砕いたのだった。

とは言え、生半可な力ではどうこう出来ない強力な結晶であるため全てが砕かれたわけではなく、大半は無事に封印する事が出来た。しかし、砕け散った一部の結晶……『魔神結晶片』はラビット隊管轄のこの区域に一定数散らばり、適性の有る怪人を強化したり、普通の人間を怪人にしてしまったりしている。

この由々しき事態を収める為、最近の俺達は出動続き。おかげで魔神片の大半は回収出来て、残りもあと僅かだろうって分析にはなっているけど。

「このあたりの反応は……微妙、ですね。怪人がいたとしてもかなり弱いか、もしくはエナジーコントロールが巧みな危険度の高い怪人かもですが」

「魔神片による強化や怪人化ではいきなりそこまでの技術は身につかないだろうし、今は考えなくていいだろう。ふふ、キミの探査術にはいつも世話になっているね。連日出動で疲れているだろうが、もう少し頑張ってくれよ」

「は、はい！　いえ、でも、アヤメさんの方が大変ですし、恐縮です！」

「全く、キミはいつも大げさだな。だけど言っているだろう、勤務中はアイリス隊長と呼べ、と。配属されて間もないキミがまだ慣れないのはわかるけど、ね」

「す、すみません、アイリス隊長！」

うぅ、やってしまったなぁ。念願かなってアヤメさん……アイリス隊長のチームに配属されたのは良かったけど、しっかりしないと。

Sラビットアイリスである、卯法院アヤメんさんは陰陽術の名家であり、今回中央の進める『スーツ能力拡張試験部隊』でスーツに陰陽術の力を付与する実験部隊のリーダーとして抜擢されたのだ。

俺は副隊長であるダリアさん……御堂サナエさんと同じく卯法院の分家に当たり、小さいころからアヤメさんのもとで修業し……当時から圧倒的強さと輝きを持つ彼女に俺は、心底憧れていた。ヒーロー適性の高かったサナエさんは俺と違ってあっさりとアヤメさんと同時に隊員になったが、俺はそこまでの実力が無かったから、必死に努力し今年になってようやくの配属になったという経緯だったりする。

それだけ俺にとってアヤメさんは特別で……これは、恋心なのだろうか？

正直俺自身、自分程度じゃアヤメさんとは釣り合わないと思ってはいるけど、でも、この人といるとドキドキして、この人の為なら何でもやってあげたいと思ってしまうのだ。もの凄く美人だし、凛々しくて、これも正直に言うとスタイルも抜群すぎて、どうしても見とれてしまう事が多々あるのも事実。(近くにいるとやたらいい匂いもするし)

でも、俺にとって彼女はそれだけじゃない。やっぱり憧れが一番強く、最高のスーパーヒロインというのが俺にとっての『銀兎神装アイリス』なんだと思う。

と、そんな事を考えながら公園の探査をしていると、一人……いや、二人の人影が現れた。片方はこちらも良く知っている、ラビット隊メンバーのSラビットデイジーさん、海外からの派遣であるエレン・ホウジョウさんだ。

そしてもう一人、割と長身なデイジーさんよりも一回りどころか二回り以上小さい姿の少年が、彼女の太ももとお尻にしがみ付いていた。

シルバーラビット・アイリス
・陰陽師名家出身のエリートヒロイン。
式神『兎神』を身に宿し戦う。
神速の剣技が一番の武器。
長身過ぎて怖がられやすいのが悩み。

「隊長、無事怪人は倒せたんですね！よかったぁ～　こっちは少年を一人保護しました。僅かにヴィーストエナジー反応も出ているので、魔神片の力に当てられて、引き寄せられちゃったんじゃないかなって」

「ご苦労、デイジー。ならば早急にラビットベースに戻り、検査しなければな」

「あ、それなんですけど……」

「うぇええ～～ん！　おねえちゃん、ボク怖かったよぉ～」

「うんうん、よしよし、大丈夫だよ、ボクくん♥

って感じで、戦闘を間近で見たのか大分怯えちゃってて、私から離れられないみたいなんですよぉ～♪両親のもとに返すのも、今は怖いからお姉ちゃんの側が良いって言って聞かないですし……そんな強い反応じゃないし、もう遅いですから今日の所はラビットベースの私の部屋で預かって、明日の朝に検査すればいいんじゃないかなって思うんですけどぉ……」

「ふぅむ……いたいけな少年に無理強いをして、トラウマを残したくはない、か……」

デイジーさんの言い分もわかるけど、何か興奮気味で過剰に少年に対してデレデレしている感があるのが、妙に勘ぐってしまうモノがあるんだよなぁ。

デイジーさんはショタコ……小さめのオトコノコが好きだってのは、いつも巻き込まれた少年をいち早く保護し可愛がっている所から、皆察している周知の事実だ。

（とは言え、流石にデイジーさんも職務を超えて少年に変な事するようじゃない人ですから、大丈夫なのでは？）

（ふむ、キミもそう思うか。ならば……）

「わかった、今日の所はデイジー、貴女に少年の保護を任せるわ。親御さんに連絡は……」

「あ、もう取ってる大丈夫です♪　良かったね、ボクくん♥　アイリス隊長の許可も出たし、今夜はお姉さんのおうちに泊まっていこうね～」

「わぁ♪　ありがとう、デイジーお姉ちゃん！　ふへへへへ」

（ん？）

一瞬だけだが、デイジーさんに縋りつく少年の顔が、とてつもなくいやらしい笑みに歪んだような気がした。

でもそれは一瞬で、この自然公園内は暗いので多分、俺の見間違いだろう。

「うむ、探索もこのあたりで十分だろう。皆、ご苦労だった！　明日は朝一番に少年の検査だ。デイジー、余り少年を夜更かしさせるなよ」

「はぁ～い♥」

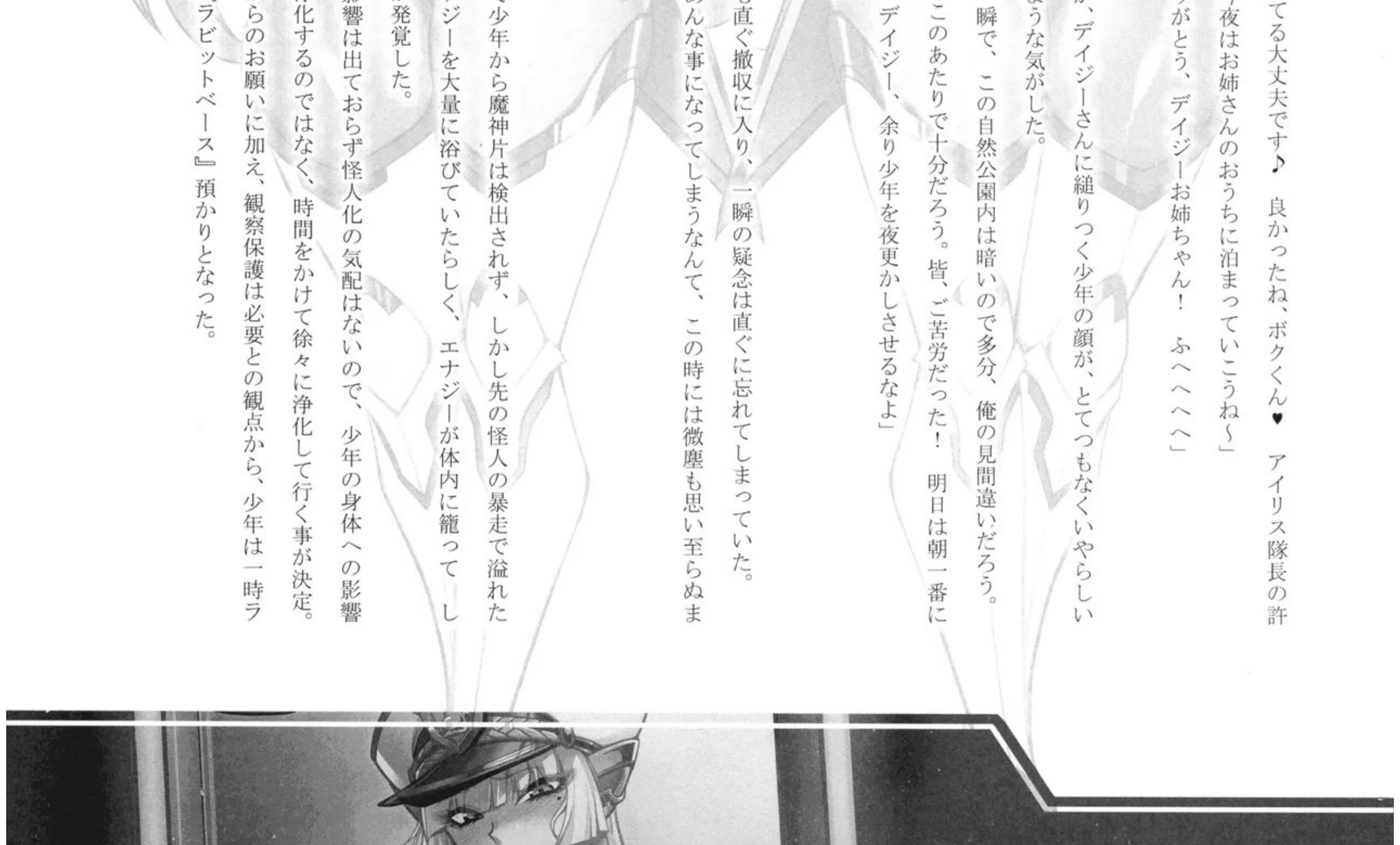
そうして俺も直ぐ撤収に入り、一瞬の疑念は直ぐに忘れてしまっていた。

そのせいであんな事になってしまうなんて、この時には微塵も思い至らぬまま……

翌日の検査で少年から魔神片は検出されず、しかし先の怪人の暴走で溢れたヴィーストエナジーを大量に浴びていたらしく、エナジーが体内に籠ってーしまっている事が発覚した。

今の所悪い影響は出ておらず怪人化の気配はないので、少年の身体への影響を鑑み一気に浄化するのではなく、時間をかけて徐々に浄化して行く事が決定。

本人と両親からのお願いに加え、観察保護は必要との観点から、少年は一時ラビット用基地『ラビットベース』預かりとなった。



そうなってから数日、彼が俺達の基地に居るのが日常風景になったのだが……

「はい、エレンお姉ちゃんの負け～♪　約束通り罰ゲームは、オッパイもみもみだぁ～！」

「あぁん、ボクくんってホント、ゲーム上手いんだね～♥　ほら、イイよ♥　お姉ちゃんのオッパイ、好きなだけモミモミしちゃって♥」

「やったぁ～！　それじゃあ遠慮なく……そぉ～れ！」

「あぁぁあ～～んっ♥♥」

ベース内で暇な少年をエレンさんがかまってあげて、でれっでれに甘やかすのは最初からそうだったけど、最近はエスカレートしすぎな気もする。

と言うかオッパイまで揉ませるなんて、うらやま……いやいや、じゃなくて、やり過ぎじゃないかとも思う。なんかエレンさん顔真っ赤で息も荒いし、こっちも変な気分になって来るし。

そして最近より気になるのは、それだけではなく……

「ほぉらボクくん、ジュースとお菓子買って来てあげたよぉ～♥　それとぉ、サナエお姉さんもゲームに参加してあげよっか♥」

「お、サンキュー、サナエお姉ちゃん♪　へへ、参加もオッケーだけどぉ、お姉ちゃんもボクに負けて、オッパイ揉まれたいのかなぁ～♪」

「やぁん、もう、ボクくんったらぁ♥　そ、そんな訳、ないじゃない♥」

最初はベースでエレンさんにセクハラまがいの甘え方をする彼を怒っていたサナエさんまでも、今はエレンさんに負けない程アイツを甘やかしているのだ。

何か……何か、おかしい気がする。

隊長……アヤメさんは根が本当に優しく、最初から彼にも柔らかく接していたからわからないが、エレンさんたちに対する態度も『家族に会えなくて寂しいのでしょうから、このぐらい甘えさせてあげてもいいじゃない』と黙認してしまっているのだ。

優しくも風紀には厳しかったアヤメさんにしては、これもやっぱり……

「と、そうだ。悩んでないで、アヤメさんに報告に行かないと……」

とりあえず報告が終わったら、改めて彼について調べてみた方がいいかもしれない。

そう思い、俺は隊長室へと向かった。

もし、もっと前から彼について調べていれば。いや、せめて、この報告の時にもっと注意していれば。

俺はそれを永遠に、後悔する事になってしまうのだった……

Sラビット・デイジー&ダリア
・デイジー海外から派遣された日系人でマイペースなパワー型。
ダリアは副隊長で真面目、器用な万能サポート型。
二人とも隊長であるアイリスを慕っている。

……以上が
ここ数日で頻発している
怪人事件の全容です
P!
こちらが現在までに
判明している怪人出現地域と、
今後予測しうる
発生ポイントのリストです
そして、これら
事件の中心には…
この『魔神片』が
絡んでいる…
という訳か
この短期間で
よく分析してくれた
君たちサポートチームの
支援があればこそ、私たち
シルバーラビッツ隊は
十全に戦えるのだ
感謝する
い、いえ
アヤメさんの為なら
このくらいのこと…
くす
まったく…
がんばり過ぎるのは
キミの子供の頃からの
悪いクセだぞ
それと
基地内ではちゃんと
『アイリス隊長』と
呼びなさい
ムチッ
ムチ
あ、アヤメさん…
好きだッ!!

ガチャッ
それではアイリス隊長、自分はこれで失礼致します！
あぁ、ご苦労さま
ニヤリ
アイリスお姉ちゃんっ!! もうお仕事の話終わった〜〜〜っ？
ワーイ♥
ムニィ
お、おい！ ここは『隊長室』なんだ、子供の遊び場じゃあないんだぞっ!!
ガシッ
まぁまぁ、この少年には申し訳ないがヴィーストエナジーによる汚染が浄化されるまで家に帰す訳にはいかないからな
はッ
はッ
こちらの都合でもう何日もここで待ってもらっているんだ
大目に見てやってくれ
カクカクカク
シッ シッ
くっ…
お姉ちゃん、ボク『お菓子食べた〜い♥』

それにしても…
あの規則に厳しい
アヤメさんが
あのガキにはちょっと
甘過ぎるような……
うわぁぁ、紅茶こぼしちゃったよオオ～～～ッ!!
『お姉ちゃん、フキフキしてェ』
あッッ
ガシャーン
些細な違和感だが
少しだけ
調べてみるか……
フキ
フキ
やれやれ、まったく手のかかる少年だな
ヒヒッ
ごめんなさ～い♥
♪
フキ
フキ
ブリン
ブリン
おッ!?
ドスン
ズズズズズ

ビクッ
ビクンッ
〜〜〜〜ッ
しょ、少年ッ!? 一体何をして…？
ガクガク
ヒヒッ
やだなぁ、アイリスお姉ちゃん、こんなのちょっとした子供のイタズラだよォ？
プシ
そう、ヴィーストエナジーを直接流し込んでるだけだけど、ね♥
おほォッ
やめなさい! こんなこと……ッ ゆ、指を抜きなさいッ!!
えぇ〜っ? どうしようっかなぁぁ〜っ??
ドクンッ
お姉ちゃんが大事に持ってる魔神結晶のカケラ♥
!?
そうだ、指抜いて欲しかったら僕のお願い聞いてよ♥
お、お願い？
そうそう、簡単なお願い♥ あのね、僕アレ欲しいんだぁ……
ガクガク

ね？ね？？ いいでしょ⁉
あはははははッ
魔神片だっけ？ 僕も1個持ってるけど もっと欲しいんだァ♥
………、そうか、君は
いや、貴様 ヴィースト軍の 怪人だったか……ッ
だから、ね♥ 『魔神片、ボクに ちょうだ～い♥♥』
バツンッ
ん、く、ふぐぅぅううう～～～っ
お？ おッ⁉
グググ
～～～～ッ
おおおおッ⁉
ズポンッ
おッ♥
ハアハア… 怪人化からの浄化には 一定以上の ダメージを 与える必要がある 覚悟してもらうぞ 少年ッツッ‼
ドドドド
ギリ…
な、なんてヤツだ…… Sラビット・アイリスッ‼
このボクをタップリ甘やかして さらに必殺技の『指カンチョー』 までキメてやったのにッ
そんな目で反抗出来た ヤツは初めてだッ‼ だ、だがしかし……ッ

神装転身
S.R.I
standby
バシュッ
SLASH!
Kyu-Kyu
Nyoritu
Ryou!!!
式神融合
カッ

いくぞ怪人ッ!!
必殺ッ!!
ラビットレイピアァァ
ハリケェエ
エエエエー…
エエエ……ン
あの華奢で愛らしい少年に
あ、あんな凄く逞しくて
立派なモノが……
ビキビキ
メスじゃなかったら
ここで勝ててたのに…
惜しかったたね、
お姉ちゃん♥♥
キュン
ドキドキ
何故か目が…
は、話せない……っ!?

ひひひ、どう凄いでしょ？
僕のこの怪人チンポでお姉ちゃんのおまんこにブビュブビュ膣出ししちゃったら……
僕のヴィースト因子がお姉ちゃんの子宮に刻印されちゃって絶対に逆らえなくなっちゃうんだよ♥ だから、ね♥ 僕とセックスしよ♥
おまんこに膣出ししまくって、身も心もグズグズのアヘアヘになっちゃって……
お姉ちゃんの事いっぱい気持ちよくしてあげるから……ね♥♥♥
ーーって、違うッ!! 私は何をしてるんだッ!?
この少年は怪人で私は悪と戦うSラビッツ隊隊長で……ッ!!
しょうがないな〜、なら特別に膣出しは許してあげるよ
こんなこともあろうかとボク、コンドームいっぱい持ってるんだ♥
……!? ん？アレ??
そ、そうかゴムを付けるなら安心だな
膣出しさえされなければいくらセックスしても問題ない訳なんだし……
そうそう♥ アイリスお姉ちゃんだけの特別待遇なんだから感謝してよね♥♥
あ、ああ…感謝するぞ少年

それじゃあ、まずは…
『ボクのチンポにゴム着けてもらおっかな♥ちゃんとお口でご奉仕してもらうからね♥♥』
ニヤ♥
ニヤ♥
ぞくぞく♥
ここで諸君に語らねばなるまいッ魔神片により強化されたこのクソガキ怪人の恐るべき『怪人能力』の秘密をッ!!
ドン
それは『おねだり』ッ!!
ちゅ♥
ちゅ♥
『おねだり』を相手に受け入れさせることで、徐々に精神を支配していく恐るべき洗脳特化能力ッ!!
ぷはッ
最初は他愛ない『おねだり』から始まるが、やがてそれは天井知らずにエスカレートォッ!!
ちゅ♥
ちゅ♥
ちゅ♥
ちゅ♥
ニュチ
ニュル

あ、あの…
せめて優しく
してくれ……
りょうか～い♥
やさしく
やさしく……
ドキドキ
ドキドキ
『おねだり』は拒否されても
執拗に繰り返すことで、
対象者は精神的抵抗力を
知らぬ間に削られてしまう!!
ギンッギンッ
ギンッ
……
ねッ!!
ひぎぃ!?
ズププウウンッ!!
『おねだり』成功回数に応じて
洗脳深度は飛躍的に上昇ッ!!
そしてこの能力の真価は
ここからッ
ここから
なのだッ!!
こ、こんなの…
太過ぎるぅぅ～ッ!!
ズププププウウ～～ッ
あッ
あッ
ビクッビクッ
ビクンッ
あひィィィ～～～ッ

あッおッ
おッお
うおおおおッ!!
これがSラビット・アイリスの
おまんこォッ!?
き、ききき
気持ち良すぎる
うう～～～ッ!!
ズパンッ!!
ズパンッ!!
ズパンッ!!
この長身ドスケベボディに
ボクの怪人チンポが
ジャストフィットだよォ♥
おおおお～～～ッ
ズパンッ
ズパンッ
ぎゅちぃ
このチカラを
手に入れてから、
何人もヒロインを
犯してみたけどォ
これがブッチギリで
最高のおまんこだァ!!
ちゅぷっ
ちゅぷっ
ちゅぷっ
ひィん
ズパンッ
あッあッ
ズパンッ
ああああ～～～ッ
これは
ボクのだ!!
ズパンッ
絶対にボクのモノに
してみせるぞオッ!!
ズパンッ
ズパンッ

お姉ちゃんも
当然ボクのモノに
なりたいよね？
あひッ♥
わ、私は誇りある
Sラビッツ隊の隊長ッ
ヴィースト軍の怪人に
屈することなど、決して…
ひうぅぅ♥
おほぉぉぉ〜〜〜〜ッッ
おうッ おッ♥おッ♥
怪人チンポ
もうゆるして
エエ〜〜ッ!!
な、なるぅ！
な、なりますぅ!!
『貴方のモノに
してくださいィッ♥』
この能力の真価とはッ
それは逆に『おねだり』
させることッ!!
その洗脳効果は通常の
『おねだり』の約10倍ッ!!
こうなればもう手遅れッ
あとは堕ちるのみなのだッ!!
よく言えましたッ
ご褒美にそろそろ
イカせてあげるねッ
アイリスお姉ちゃん♥
は、
はひィィッ♥
イカせてエッ♥
『もうイカせて
くださいィィッ!!』
♥♥♥

ひぎィッ♥
ビククッ!
おまんこイクゥッ♥♥
ビクッ
ブビュウウ〜〜ッ♥♥
イクイクイクッ♥
イグウウウ〜〜ッ♥
おッ♥
ブビッ♥
ブビュウッ♥
おほッ♥
〜〜〜ッ♥
モワ
モワァ
ひぅッ♥
ブポッ♥
ふぅぅ〜、見て見て♥
こんなに精子出たの
生まれて初めてだよォ♥
でもまだまだ足りない…
本番はこれからだよ
アイリスお姉ちゃん♥♥
ダプン
ダプッ

20:09
ぢゅぷぷ♥
あぁッ あひィ♥
ぢゅぷぷっ♥
あッ あッ♥
ぢゅぷぷ♥
ぢゅっぷ♥
イクゥウ〜〜ッ♥
ぢゅぷぷ♥
23:42
ひィイ〜〜ッ♥
パン♥
ちくびイ♥ ダメぇッ♥
パン♥
パン♥
ひぎィイ〜〜ッ♥
パン♥
03:01
おほッ♥ おしりイイ〜〜ッ♥
ケツで イクゥッ♥
ヌポ♥
ブポ♥
ズポ♥
ブポッ♥
ケツマンコでも イクゥウウ〜〜〜ッ♥

ふぅ、出した出した♡
遂にコンドーム全部使い切っちゃったよ
これじゃあもうセックス出来ないね
でも、ざんねんだなァ
もしアイリスお姉ちゃんから『おねだり』してくれるなら………
ゴクリ…。
膣出しセックスでもぉっと気持ちよくしてあげれるのになあァ～
…さんッ!!
アヤメさんッ!!
ご無事ですかアヤメさんッ!!
キ、キミか…
こんな早朝からどうしたんだ…?
よかった、通信が繋がらなかったので……
聞いてくださいッ
あの少年のことが気になったので、検査記録を洗ってみたら…
改竄の痕跡が…ッ
あ～あ、バレちゃった
!?
さすがはザコでもエリート部隊の一員ってワケだ
でもちょっと遅かったね

お姉ちゃんは…
いや、シルバーラビッツ隊隊長
シルバーラビット・アイリスは
もうボクのモノだよッッ♡
…という訳で
すまないが私はもう
彼専用のメス兎
なんだ♥
もしキミがご主人様の
邪魔をする気なら……
覚悟してもらうよ♥♥
どくっ
どくっ
そ、そんな…
あの気高いアヤメさんが
たった1晩でこんなに
変えられてしまうなんて…ッ
ポォ
Happy Slave End♥

今作は『とりのおいしいところ』と『Crooked Navel』共同制作のノベルゲーム
『聖宝晶華セイントライム～VeasTubeエロエロ配信Edition～』登場の
僕が原画担当したサブヒロインであるアイリスさんスピンオフ外伝となっております。
そして新作CG集『聖霊騎装バニキューレ・フレイア』にもアイリスさん登場していますし、
SDキャラ絵、一部イベントCGの原画等で今回もがっつり参加しちゃってます！
近日中発売予定！ 是非是非DLsiteとFANZAをチェックだぁ！

奥付

発行日：2024年12月30日
サークル名：トランジスタベイビィ
著者：波多（Xアカウント：torabe555）
（https://www.pixiv.net/users/1024628）

印刷：サンライズパブリケーション様
共同制作：真田クロ（Crooked Navel）
表紙彩色：エチゴヤ様

18歳未満の購入閲覧、
無断転載を禁止します

←アイリス&ノルンのWパイズリを担当しました！
どんな内容かは是非本編でお楽しみください！